

教理研究院

サンクチュアリ教会およびUCIを支持する人々の言説の誤り(18)

UCI(いわゆる「郭グループ」)を支持する人々は、二〇一六年秋以降から各地で集会を行って金鍾奭著『統一教会の分裂』の日本語訳の書籍を広めています。今回は、この書籍が述べているストーリーの虚偽性について、み言改竄の問題などを具体的に取り上げます。

なお、これらの内容を総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト」(http://trueparents.jp/)の掲載文や映像をごらんください。

教理研究院

注、真の父母様のみ言は「青い字」で、UCIおよび反対派の主張は「茶色の字」で区別しています。

二十二、「虚偽まみれ」でも、宗教学者を自称する金鍾奭氏

金鍾奭氏は『統一教会の分裂』の「序文」で、この書が「統一教会創始者の他界を前後した統一教会の分裂の状況を追跡した話」であり、「宗教学研究の内容」であると述べ、この書が宗教学的に研究した「学術書」であるかのように装っています。しかし、そのように述べることは、虚偽の主張にほかなりません。

すでに「虚偽」を暴くシリーズで指摘してきたように、彼ら真のお父様のみ言を引用しますが、それらは改竄と隠蔽にまみれたものであり、彼の主張は事実に基づかない「虚偽」と言わざるをえません。

金鍾奭氏は、『統一教会の分裂』で、真のお父様が二〇〇〇年十一月十一日に「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

金鍾奭氏は同年十一月十一日、真のお父様が「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は、顯進様を「一九九八年七月、世界平和統一家庭連合世界副会長……二〇〇〇年三月三十一日に統一教会が主導する大学生組織カープ(CARP)の世界会長」(68ページ)と述べています。

に任命し「将来の統一教会後継者としての立地」(68ページ)を強固なものとした。

しかし、「文顯進を先頭に立てて創始者の権限を伝授する過程」において、「創始者が示した態度が不明確」(69ページ)であった。真のお父様は「二〇〇〇年三月に韓鶴子の後継者」(69ページ)であると語られながら、「二〇〇〇年十一月には『母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ』(70ページ)とも語られ、後継者に対する「態度が不明確」であった。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代なのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

金鍾奭氏が述べる以上の内容は事実と反します。真のお父様は前述したように二〇〇〇年三月十日、「先生が霊界に行くようになればお母様が責任を持つのです。その次には息子・娘」であると語っておられ、後継の秩序は明確です。

真のお父様は「母子協時代を退けて、父子協時代へと越えていくために、母親はここに協助しなくても、絶対信仰・絶対愛・絶対服従していくことに

たとし、その後、二〇〇六年十月六日には「文顯進と一つになって真の父母に従え」(108ページ)と指示され、さらに二〇〇八年十二月二十四日には「文顯進を中心に一つになれ」(139ページ)と命じられたと述べています。

このように、彼は二〇〇〇年の「父子協時代の到来」以降、真のお父様が顯進様を「中心」に立てようとしてきた一連の流れがあったかのようにストーリーを描いています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

真のお父様は「母子協時代が終わって父子協時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」と語り、その根拠として『み言葉選集』456巻465頁(70ページ)を挙げます。しかしマルスム選集456巻は316ページしかなく、出典を偽っています。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

「先生を中心とした子女たちが生まれたために、父と息子、父子撰理時代になるのです。母子撰理時代ではなく父子撰理時代になるのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と語り、真のお父様は次のように語っておられます。

真の父母様宣布文サイトはこちらから↓



「**私たちを育てながら迫害**」を受け、**てきた**、そのような**「母親たち**、**は必要ない**」時代なのです。「**真の父を中心として真の母が現れ**、**そこから生まれた息子と娘たち**には、**サタンは手をつけられない**」時代であるので、**真の母が絶対に必要な時代**となったのです。

金鍾奭氏は、真のお父様の後継に対する「**態度が不明確**」であるかのような虚偽のストーリーを描くために、「**父子協助時代が到来した**ので、**母は必要なく、父と息子が一つにならなければならない**」とみ言を改竄し、**出典の表記まで偽っている**のです。

②二〇〇六年十月六日「**文顯進と一つになって真の父母に従え**」のみ言はない

『統一教会の分裂』は、「カリスマ伝授の失敗…**文顯進追放過程**」(107ページ)という虚偽のストーリーを描くために、

以下のように述べています。

真のお父様は、**顯進様を「将来の統一教会後継者」**(68ページ)として立てるために「**文顯進を先頭に立てて創始者の権限を伝授**」(69ページ)しようと言われた。二〇〇六年から**顯進様**はUPF世界巡回講演を行った。二〇〇六年四月一日、お父様は、**顯進様を「UCIの理事長に就任させ**」(89ページ)た。二〇〇六年初め頃から、ヨイド聖地開発における騒動が生じ始めたが、これは「**弟の文國進が兄の文顯進の公的責任を妨害する為に起こした**」(90ページ)ものだった。同年四月二十三日、お父様は「**家族会議**」(90ページ)を開き、そこで「**文國進は韓国維持財団の業務から直ちに手を引き、UCI理事として文顯進理事長の下で仕事する**」(90ページの脚注)ように指示された。しかし、「**家族会議で決まった詳細事項は守られ**

(同)ずに、**真のお母様は「創始者の決定と違って文國進が財団理事長の座を維持するように」**(同)した。それでも、お父様は同年十月六日、「**文顯進と一つになって真の父母に従え**」(108ページ)と言及された。そして二〇〇七年七月、**顯進様**は「**UPF共同議長に正式に就任**」(109ページの脚注)し、「**UPFに対する責任までも任せられた**」(109ページ)。実際には「**統一教会の全ての組織を文顯進が掌握するようになった**」(同)のである。だからこそ**祝福家庭は「文顯進と一つになって真の父母に従えと言及」**(108ページ)され、それこそがお父様の願いであった。しかし、**そのお父様の願いに反して、お母様と「文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放」**(239ページ)したのであった。

しかし、以上の内容は事実と反する、完全に虚偽のストーリーです。

「**トリー**」です。

金鍾奭氏は、二〇〇六年十月六日、**真のお父様が「文顯進と一つになって真の父母に従え」と言及したとするみ言**を次のように引用します。

「**地上ではこれから顯進を中心として一つにならなければならないのです**。それゆえに皆さんは**文顯進家庭を中心として一つになり、父母様に従って入っていくのです**。そうしてこそ全てが終わるのです」(108ページ)

『統一教会の分裂』はこのみ言を『**み言葉選集**』335巻285ページ、2006・10・06(108ページ)からの引用であるとします。しかし、二〇〇六年十月六日のみ言は、335巻285ページには存在しません。マルスム選集335巻285ページを見ると、これは二〇〇〇年十月六日に語られたみ言で、**金鍾奭氏が「母子協助時代が終**

わって**父子協助時代が到来した**」と**真のお父様が述べられた**とするよりも**以前のものです**。それを、彼は二〇〇六年十月六日に語られたみ言であると、六年も偽っています。お父様が二〇〇六年に「**文顯進と一つになって真の父母に従え**」と言及されたとするみ言の引用は、**虚偽にほかなりません**。

ちなみに、二〇〇〇年十月六日に語られたこのみ言は、**顯進様が「二〇〇〇年三月三十一日に統一教会が主導する大学生組織カープ(CARP)の世界会長**」(68ページ)に**就任された**

年のもので、その意味は**真のお父様が立てた責任者(カープ世界会長の文顯進様)**に従い、**真のお父様のみ言を果たすよう指導者や食口たちを教育した**ものです。「**将来の統一教会後継者**」は**顯進様**なので、「**文顯進と一つになって真の父母に従え**」と語られたものではありません。**金鍾奭氏が、二〇〇六年の**

み言であるかのように年数を改竄したのは、**祝福家庭が「文顯進と一つになって真の父母に従え」**(同)ことが**真のお父様の願い**であり、**本来、お父様は顯進様を「将来の統一教会後継者」として望んでおられたが、それを阻止するために、真のお母様と「文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放」したという虚偽のストーリー**を描くためだと言えます。

実際の真のお父様のご意向は、二〇〇五年一月七日、「**外的に息子娘に任せるのです**。アジア地域は**國進**であり、西洋地域は**顯進**であり、その次に**宗教圏は末子(亨進)**です」(マルスム選集482-21)と語っておられるように、「**統一教会の全ての組織を文顯進が掌握する**」ことではなく、**子女に責任を分担させ、真の父母様のみ言を中心に子女たちが一体化して歩むこと**を願っておられたのです。二〇〇六年十月六日、**真の**

お父様が「**文顯進と一つになって真の父母に従え**」と言及された事実はなく、これも**金鍾奭氏の創作文**です。彼がこのように偽るのは、お父様に対する「**韓鶴子の不従順**」(245ページ)を何とか描こうと、「**韓鶴子と文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放**」(239ページ)させたかのようにでっち上げたためなのです。

③二〇〇八年十二月二十四日「**文顯進を中心になれ**」のみ言も存在しない

金鍾奭氏は、その根拠として『統一教会の分裂』135ページの脚注349番で、『**週刊文春**』48ページの記事を引用しています。

「(349)日本のジャーナリスト石田謙一郎は二〇〇八年十二月二十四日、**文顯進を中心とした組織改編を示唆する創始者の言及……を以下のように伝えている**。……『**これからすべての摂理は、長兄である顯進氏が中心になっていく**』」

『統一教会の分裂』は、二〇〇八年十二月二十四日、**真のお父様が亨進様に「文顯進を中心になれ」と指示**(139ページ)されたと言及されていますが、そこにはみ言の典拠が表記されていません。二〇〇八年十二月二十四日に語られたみ言は、マルスム選集604巻198-213ページに「**新しい聖殿と祖国光復**」という題目で収

録されていますが、お父様が「**文顯進を中心になれ**」と亨進様に対して指示されたみ言はありません。



『週刊文春』の記者「石田謙一郎」の記事からとし、それを脚注に引用しますが、石田という名も虚偽表記で、正しくは石井謙一郎氏です。

二〇一一年当時、家庭連合はその記事に対し、事実と反する記述が多くあったため、出版元の文藝春秋社と石井謙一郎氏に対し、訂正と謝罪を求め「抗議文」を送り、「週刊文春」ねつ造・歪曲」報道を糾弾する」ための抗議行動も行いました。【下の写真参照】

石井謙一郎氏は、有田芳生氏らと共に統一教会に対する反対活動をしてきたジャーナリストです。彼らは一九九三年四月に起こった山崎浩子さん「脱会」に関連して注目されたジャーナリストで、山崎さんの強制的な脱会説得事件の一翼を担った立場において報道をした人物です（参考、太田朝久・三笠義雄共著『有田芳生の偏向報道まっしぐら』賢仁舎刊）。その反対



派の人物を、『統一教会の分裂』は「石田」と名前を変えて掲載しており、これは反対派ジャーナリストだと分らないようにするための隠蔽工作と言える行為です。

もつと驚くのは、『統一教会の分裂』の原本の韓国語版の脚注では、この『週刊文春』二〇一一年九月八日号の引用文が全て削除されています。韓国語版の原本と、日本語版の『統一教会の分裂』とは、脚注の番号がずれており、日本語版の最後の

202)

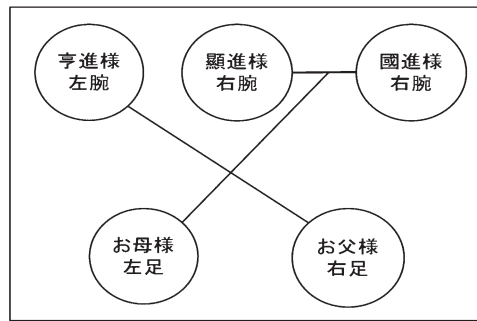
このように、真のお父様は亨進様に対し、新しい聖殿建設について「あなた**が全体に責任を持つ**」と語られ、「天福宮建設基金」を下賜されたのです。さらに、「新しい聖殿と祖国光復」に対する摂理の進路と兄弟間の秩序については、次のように語っておられます。

「神様を中心に、その次にアダムを中心に亨進です。亨進は右側に立ちましたが、先生と対称になっており、あなたたち（顯進・國進）はお母様を中心に対称になっていますが、歩く時はどうでしょうか？左足は右腕に合わせ、右足は左腕に合わせるのです。このように歩くのと同じように生かされる新しい目的地を探すためには、このように入れ替わらなければならぬのです。新しい聖殿と新しい祖国光復です。祖国光復を成すにおいて聖殿を中心に成すのです」（マルスム選集604）



2008年12月24日、天正宮博物館

真のお父様は、亨進様はお父様と対称に、顯進様と國進様はお母様を中心に対称になっていると語っておられます。それは、歩くときの足と腕の関係のように、右足のお父様と左腕の亨進様とが歩調を合わせ、左足のお母様と右腕の顯進様・國進様が歩調を合わせて、新しい目的地を探すために、入れ替わらなければならぬと語られ、亨進様をお父様から向かって左側



に立たせました。そのように、兄弟間の秩序を明確にしておられます。【左の写真と図参照】  
この秩序は、二〇〇八年四月六日、第四十九回「真の父母の日」に、ハワイにおいて「真の母およびアベル・カイン」一体化の特別式」を挙行されたときの立ち位置と同じです。すなわち真のお母様を真ん中に顯進様、國進様を両脇に立てられ、互いに手をつなぐように指示されました。【次ページ写真参照】  
真のお父様はそのハワイの

脚注番号が729であるのに対し、韓国語の原本は726になっています。原本と翻訳本の脚注が食い違う書籍は、めったに見られない「珍本」です。  
引用元である二〇一一年九月八日号『週刊文春』の記事を読むと、この情報源は「韓国の統一教会関係者」（48ページ）だと書かれており、おそらくUCIの関係者と思われる。これこそ「虚偽の情報」を提供したことに對する隠蔽工作であると考えられます。  
結局、二〇〇八年十二月二十四日に真のお父様が亨進様に対し「**文顯進を中心**」になれ」（139ページ）と語られた根拠は、反対派ジャーナリストの石井謙一郎氏の記事であり、お父様のみ言ではなく、み言に根拠ありません。

『統一教会の分裂』の135ページでは、二〇〇八年のクリスマスイブの晩餐会で、真のお父様は「**文顯進中心の兄弟間**

秩序と摂理の進路を明確にしたという。特に新しい聖殿と祖国光復の意義を強調し、文顯進を中心に左右に文國進と文亨進を立てて、天福宮建設基金20億ウォンを文顯進―文國進―文亨進の順に下賜しながら、創始者が持っている全てを相続し、世界万民と後世に創始者を代身して分け与えることができる伝統を守る先祖になるよう促した」と述べたとあります。しかし、マルスム選集を見ると、お父様は天福宮建設基金を下賜されながら、次のように語っておられます。

「兄を中心として（天福宮建設基金を）与えるのです。顯進が真ん中に立ちなさい。國進は左側に立ちなさい。亨進はあなた**が全体**（新しい聖殿）に**責任を持つ**ので右側に立ちなさい」（マルスム選集604・2000〜2001。2008・12・24）

式典で、次のように語られました。

「あなたたちカインとアベルが、お母様の言葉に絶対服従しなければなりません。……あなたたち兄弟同士で争って分かれることはできません。それが父母を殺した元凶です。ですから、われ知らず憎みます。声を聞くのも嫌で、歩いていくのを見れば、後からついていって殺したい思いが出てきます。あなたたちに、われ知らずそのような思いが出てくるのです」（『ファミリー』2008年6月号、30ページ）

このハワイの式典で、真のお父様が語っておられるように、真のお母様の言葉に子女（カイン・アベル）である顯進様と國進様が絶対服従して、一体化していくべきなのです。  
二〇〇八年十二月二十四日の晩餐会の写真だけを見ると、まるで「文顯進中心の兄弟間



2008年4月6日、ハワイ

「秩序と摂理の進路を明確にした」と勘違いしてしまいます。しかし、お父様は、「亨進はあなた**が全体に責任を持つ**」と語っておられ、さらには「亨進は右側に立ちましたが、先生と**対称**になっており、あなたたち（顯進・國進）は**お母様を中心**に**対称**になっています」と語っておられ、「真の母」を中心として子女（カイン・アベル）である顯進様と國進様が、真のお母様に絶対服従して一体化していくことが、神様の摂理を進め

ていくための最大のポイントであることが分かります。

結局、真のお父様の願いは顯進様と國進様が、真のお母様の言葉に絶対服従することであったにもかかわらず、そのようにできなかったところに、今日における子女様の問題の原因があったと言わざるをえません。

二〇〇八年十二月二十四日、真のお父様が「祖國光復を成す**において聖殿を中心**に成す」と語られたように、新しい聖殿である「天福宮建設」の全体に責任を持っておられた亨進様がその当時、家庭連合の世界会長であり、兄弟間においては末っ子でありながらも、全体に責任を持つ兄のような「**中心的長子**」の立場だったことが分かります。真のお父様は「**統一**家において長子は誰ですか。……**孝進**より先生の息子、娘」（マルスマ選集1331244）と語っておられ、孝進様がカープ世界会長のときに、お父様は「**中心**

的長子」（『祝福』1985年冬季号37ページ）の責任を果たすよう願っておられました。同様に、その当時、亨進様に対しても「**中心的長子**」の責任を果たすよう願っておられたのです。

したがって、二〇〇八年十月二十四日、真のお父様が「**世界会長である文亨進に二〇〇八年十二月二十四日、『文顯進を中心**に**一つ**になれ」と指示された事実はなく、これは家庭連合に対する反対派ジャーナリストの石井謙一郎氏が書いた「ねつ造・歪曲」記事からの引用であり、「**韓国の統一教会関係者**」が提供した、虚偽の情報なので。

以上、見てきたように、『統一教会の分裂』は、み言の改竄が散見し、事実と反する虚偽のストーリーでつづられているのです。書籍の根拠となる真のお父様のみ言の原典に当たってみると、ことごとくみ言改竄をして

いる事実が浮き彫りになります。もし金鍾奭氏が「宗教学者」であると豪語するならば、彼の学者としての品格やモラルを疑わざるをえません。

さらに、UCI（いわゆる「郭グループ」）を支持する人々は、金鍾奭著『統一教会の分裂』の虚偽のストーリーを「事実」であり、「**真実**」であるかのように思い込んでおり、二〇一六年の秋頃から日本で集会を行いながら広めています。

二〇一〇年七月十六日、真のお父様は故・神山威氏に対して、「**彼ら（UCI、いわゆる「郭グループ」の人々）**の**ことが、一つ聞いて、二つ聞いて、三つ聞いたら、みんなうそばかり**」であると語っておられますが、金鍾奭著『統一教会の分裂』は、うそで塗り固められた「虚偽のストーリー」なのです。何度も言いますが、私たちは、このような「**悪書**」に惑わされてはなりません。